

がんばれ雲南病院市民の会

矢壁 敏宏、加藤 一郎

キーワード：行政と住民、楽しい人生を過ごすための知恵、家庭から地域

(雲南市立病院医学雑誌 2019; 16(1): 189-190)

はじめに

私たちが待ちに待った新病院棟が完成し、住民の安心安全を守る最大の拠点として、名実ともに地域医療日本一が推進されることを期待するものでございます。私たち住民としても住民が担うべきことを自覚し、活動を進めたいと考えています。

本会が市立病院を支える力は微小ではありますが、継続した活動を強く進めることをお誓い申し上げ、本会の活動方針や状況をご紹介させていただきます。

病院の危機と市民の会の発生

住民は、2007年「雲南病院経営危機」という突然の新聞報道に驚きました。その原因が医師不足でピーク時の34人から2010年には半数の17人となったことも一つの大きな要因となり医療崩壊に繋がるという報道でした。

しかし、病院の状況や情報を知らない住民は只々不安や焦りがつのるのみで、「行政が何とかする」といった根拠のない安堵感も交錯する中では「住民も何かしなければ」という考えが湧いてくることもありませんでした。

やがて、一部の住民から「とにかく住民も動こう」という悲鳴に似た声が聞こえてきました。2008年3月病院を元気にする集い・がんばれ雲南病院市民の会(以下市民の会)が設立されました。しかし、市民の会は、町内の既存組織の代表等を主メンバーとしていたこともあり、直接に活動に結び付くことはありません

んでしたが、初年度事業として病院ボランティアの募集をしたことが後に大きな活動へと発展することとなります。

役割と基本的な考え方

スタート時における活動は、医師確保及びそれらに関わる住民の役割や住民が順守しなければならないルールなど、どちらかと言えば住民と医療機関の関係における基本的な啓発が中心でした。しかし、時代とともに活動の方向や内容は少しずつ変化してきました。

医療機関や従事者に対する感謝と住民が担う地域医療という活動の大きな流れは変わりませんが、住民が自らのこととして予防、健康維持の推進や高齢化、福祉介護など多岐にわたる啓発や実践が必要となりました。

例えば、医療政策や制度の変更について医療機関や行政から住民にもたらされる情報が誤解される部分があったとしたら、それらを解きほぐす役割が住民の活動であると考えています。住民の立場や目線で話し合い、相互理解に繋げることが市民の会の大きな役割であると自負しています。

具体的な方法として、研修会での住民の意識啓発と実践を促す活動であり、住民自身が率先して行政や医療機関からの情報を理解し、話しあい、自覚し、さらに考え、研修会や具体的事例のなかから納得できる形でそれらを受け入れ、実践することが必要であると考えています。また、研修会の在り方も在宅医療や介護、

看取などについての考え方を「楽しい人生を過ごすための知恵」とポジティブに捉えた提案をしています。

・受診のための便利手帳

医療機関を受診する際に不安や戸惑などを取り除き、安心して受診することができるように、参考書として「保存版・医療機関を受診するときの便利手帳」(雲南病院・雲南医師会監修、A5)を発行し、市内全戸に配布しました。医療機関や調剤薬局など関係の窓口には置いていますが、現在でも活用され、全国からの問い合わせや相談がきています。

・サンキューメッセージ

「看護師さんお世話になりました」「先生ありがとうございました」など患者や家族からのメッセージが投函できるよう外来や病棟に置かせていただいています。これらも医療機関と患者や住民を結ぶツールとして考えていますが、本会が仲介してメッセージを医療従事者に直接伝えることによって感謝の真意が伝わり、加えてメッセージを受け取った医療従事者のモチベーションのアップにつながっていると喜ばれていますが、新病棟となった関係で、現在は再開のための設置をお願いしている状況です。

・新任医師の歓迎会

私たち一般の住民は、医師を探したり招聘することは困難ですが、新しく病院に着任していただいた医師、看護師に感謝の気持を表すことは、住民にできる唯一のことであると考えています。そのような意義から「新着任医師の歓迎会」を病院ボランティアの会と共同で開催しています。また、病院、保健所、市役所にも呼びかけて行います。

今後の課題

我が国における地域医療の歴史は浅く、ましてや住民の参画は緒に就いたばかりです。現在地域医療の諸課題でも住民自身が自分のこととして関わらなければならない部分はますます増えると考えています。高齢化問題、在宅医療・看護、認知症などについても進行速度においては、それぞれ緩急はあったとしても必ず住民に及ぶこととなり、住民自身が解決しなければならない部分がほとんどです。住民が地域における役割を認識し、家庭の問題から地域の問題としてとらえ、住民の活動が多様な主体と連携しながら地域で支えなければならない時代であることを認識し、活動を継続しなければならないと考えています。

Citizens' Association for Supporting Unnan City Hospital -Gambare Unnan City Hospital

Toshihiro Yakabe, and Ichiro Kato

Citizens' Association for Supporting Unnan City Hospital -Gambare Unnan City Hospital
Correspondence: Toshihiro Yakabe, Citizens' Association for Supporting Unnan City Hospital -Gambare Unnan City Hospital [96-1 Daito-cho Iida, Unnan, Shimane 699-1221, JAPAN]
Telephone: 0854-47-7500 / Fax: 0854-47-7501
E-mail: hospital-soumu@city.unnan.shimane.jp